

古文書倶楽部

【発行】
秋田県公文書館
2014.9
第61号

特別展示室にて、企画展「アーカイブズで秋田の文化を探れ！」を開催中です。国民文化祭の前に、秋田の伝統行事や文化財をおさらいしてみませんか？ 前期展示は九月二三日まで！

県政映画上映会

去る八月三十一日（日）、今年度第一回目の県政映画上映会を開催しました。

今回はこの秋開催される国民文化祭にちなみ、伝統工芸や生活文化など「秋田の文化」に関する話題をはじめとした五本の作品を上映しました。



残暑の中、午前の部午後の部合わせて七一人の方々にご来場いただきました。アンケートの結果、大館市の大火、国立公園に指定された八幡平、秋田国体前の県民体育大会、檜岡焼、竿燈祭りなどの作品に興味を持たれた方が多かったです。

「秋田県の発展していく様子を見て自分の生きる時と重ねることができた。」（六十代女性）
「今回も貴重な映像を懐かしく拝見しました。」（七十代男性）
「後世に残すことの大切さを改めて感じました。」（五十代男性）等々、おかげさまでご好評をいただきました。
次回は十一月三日（月）文化の日に開催予定です。たくさんのご来場をお待ちしています。

参勤、間に合いません！

「国典類抄」より

「超高速！ 参勤交代」という映画、ご存じでしょうか？ 藩主が帰国した直後、幕府に再度の参勤を命じられた小藩の奮闘をコミカルに描いた内容ですが、タイトルと設定の奇抜さに「そう来たか！」と唸ってしまいました。

佐竹義和の時代に編纂された「国典類抄」では、「嘉部」に参勤交代の記録が登場します。映画と同時期の享保九年（一七二四）三月、佐竹義峰の参勤はいくつかのトラブルに見舞われました。一部を抜粋すると：

・一六日 戸嶋出発

雄勝山中に未だ雪が多く、馬の足が立たないところがあるため、今月中の到着が難しいと老中へ報告するよう江戸留守居に飛脚を立てる。

・二三日 院内到着

号 検地役から「杉峠から新庄領まで雪普請を指図した」と報告あり。（義峰が）「人足たちに少しでも褒美を与えたい」とのことで人足六五〇人に金千疋を与えるよう代官へ指示する。

部 俱 楽 部 こと 雪普請」とは、おそらく除雪のことでしょう。割注に「日数二而取合候得は古文式千六百六十八人」とあることから、作業は四、五日がかりであったと推定されます。

・二四日 院内出発

江戸へ飛脚を立て、今日領境から出る旨を老中へ報告するよう指示。

・四月初日 須賀川到着

江戸から飛脚が到着。水野和泉守殿より到着の遅れを了承する書状が届いたとの報告。

「水野和泉守」とは、岡崎藩主・水野忠之のこと。享保の改革では老中として吉宗を支えた人物で、「暴れん坊將軍」はじめ数々の時代劇にも登場しています。

四月七日には草荷（草加）を出発し、いよいよ浅草の上屋敷へ向かいますが、ここで最後のケチが待っていました。

：千住大橋御普請有之二付小舟渡故 御通成
兼候而千住掃部宿一里塚左之方隅田川街道両
国橋浅草橋酒井左衛門尉殿御屋敷前川端新橋
通より 御通被遊上屋敷江被為 入候

橋が工事中のため、直前でルート変更。午の刻（昼前後）によりやく到着します。ちなみに天気は雨でした。

他の参勤交代でも「御昇進に伴い宿札を改めなければならぬ」「水戸街道（佐竹氏の旧領）を通る際の注意」など、記録から様々な苦労が伝わってきます。「国典類抄」翻刻本は閲覧室書架に揃っています。公文書館で秋田の参勤交代に触れてみませんか？

【鍋島 真】

古文書こぼればなし

岡忠昌の横浜見聞記

元治二年五月の

「公私日記」より

元治二年（四月慶応と改元）五月二日、秋田

藩御膳番の岡忠昌（百人）は、家老宇都宮帯刀に随行し、御勘定役田代蒞、御納戸役秋山此治らと横浜居留地を視察しました。神奈川宿に五ツ半（午前九時）到着し、ここから舟にて横浜に入りました。案内人は異人に対応できる平吉と、横浜御用商人伊勢屋平蔵が同行すること

で、手ぎわよく見聞することができました。この時の記録が「公私日記」（岡四一九―二）に残されています。忠昌は見聞の内容で特に珍しいと思われるものについては箇条書にして簡潔に記しております。

一、当時異人參候国々大体左之通家数有之候由、式百軒余とも申候

○亜国 四十二ヶ処 ○英国 七十ヶ処

○仏国 十一ヶ処 ○蘭国 二十三ヶ処

○李国 フルイセン 八ヶ処 ○葡国 ホルトガル 七ヶ処

○瑞国 スイツル ○魯西亞

スイスとロシアの家数は記しておりません。

一、英国ノ軍艦人緋羅紗之筒袖ヲ着、冠ハ白シ、服ハ黒キ地ニテ赤キ監筋一本アル、旅館ノ入口ニゲンベル（劍付）ヲ持、門前壺人宛往来致し固メ居候
一、仏国ノコンシイル居候、屋敷前ニケン付鉄炮ヲ持かため居候
一、魯西亞国ノ兩替屋普請中也、異人參兩替致居候所ヲ見ル、例之ドル銀也

一、仏国ノ料理屋会席風ニテ為喰候よし

一、異国ノ台事場高キ丸キ大キナ机ノよふな物へ織物ヲ敷候所モアリ、又机斗リノ所モアリ、台器は別之所ニ仕舞置候、又机ノ上ニギヤマンの小皿出し置候所もアリ

一、居国ノ居酒屋も多く有之候、肉類ヲ商所モ数軒有之、又反物ヲ売所も有之也、居酒屋肉類商ふ家ハ處末也

一、英艦大小ニテ式十艘位在候、其内英国ノ船一艘格別大キク見得候

この日は伊勢屋平蔵の家に宿泊しました。家の造りは和洋折衷の構造でした。忠昌のこの簡潔な文は今日の私たちから見れば、誰でも理解出来る光景と言えるでしょう。

翌五月三日には次の事柄が注目されます。

一、横浜ハ立坪数十八万坪ト申事也、尤関門之内也、商館一軒千坪位之所も有之よし、家一軒普請料大鉢三万兩、四万兩位宛懸り候由



「御貿易場」（山62）に描かれた安政六年（1859）の横浜港

そして制度の上で忠昌が驚いて書き留めたのは、アメリカの国王が三年位で交代し、またミンシトル（大臣）・コンシイル（領事）様の官職も三、四ケ年で交代し、部下の役職も札入れに従って定めることでした。封建機構の中で生きる人間にとっては、なかなか理解しにくいことだったと推察されます。

【加藤民夫】